

## 第2回 高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会（議事概要）

- 日 時：令和5年3月29日（水）9時15分～11時10分
- 会 場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター中会議室 302
- 出席者：委員全員出席
- 内 容：以下のとおり

### 1 議事項目（資料に基づき、事務局（新潟県交通政策局交通政策課）から説明）

#### （1）第1回検討委員会の議事概要等

- ・現状と課題について（過年度調査、「新潟地域」と「上越地域」のアクセス状況等）
- ・高速ネットワークのあり方に関する調査（施設計画、運行計画、概算工事費、工期等）
- ・今後のスケジュール（第2回→令和4年12月、第3回→令和5年2月）

#### （2）高速化手法の詳細確認

- ・（案1）信越本線「ミニ新幹線化」の令和4年度の調査内容、配線略図による高速化手法の詳細、工事のステップ案等
- ・（案2）信越本線「既存線改良による高速化」の令和4年度の調査内容、配線略図による高速化手法の詳細等
- ・調査の進捗状況（イメージダイヤの検討（案1）、表定速度の検討（案2）、概算工事費、概略工期、所要時間（短縮時分）、メリット・デメリット）

#### （3）今後の調査方針等について

- ・需要予測の算定方法（検討ケース、使用データ、ゾーン区分、比較分析対象エリア、予測モデルの選択構造等）
- ・次年度の調査内容（施設計画の深度化、運行計画の深度化）

### 2 意見交換（委員からの主な発言項目（概要））

- アクセス向上だけでなく、国土強靱化の中で、国も上手く取り込みながら、検討するべき。
- 県民の機運醸成が必要なのではないか。自治体、沿線住民等が共同した取組が必要。
- まちづくり等の広い視点で副次的な整備効果を考えていくべき。
- 観光利用等、どのように取り込めるか、次年度以降、深度化してほしい。
- 長大な工事期間や運休など、県民目線でどのような影響があるかなど議論する必要がある。
- トキ鉄の運休による鉄道収入等、会社への影響など課題検討が必要である。
- 大規模工事ではなく、防風柵の設置等の対策で、現行の「しらゆき」の安定運行を目指す取組が必要。
- 運行シミュレーションも、どこの便がどれほど影響があるか、分かりやすく説明してほしい。
- 新潟と関西の流動だけでなく、東北方面等の他の地域についても考慮して算定すべきではないか。
- 観光利用等、どのように取り込めるかどうか、次年度以降、深度化してほしい。
- B/CのBについて、どれだけ県にとって、効果があるか、次年度深度化して調査してほしい。
- ベネフィットの部分で、どのような項目が考えられるか、幅広く調査検討いただきたい。
- 交通の利便性という点で考えると、今ある信越本線の利活用を議論するべき。

## 高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会 委員名簿

(順不同、敬称略)

団体名	職名	氏名	備考
梶山女学園大学 現代マネジメント学部	教授	大串 葉子	委員長
富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科	教授	金山 洋一	
株式会社 J T B 総合研究所	執行役員 企画調査部長	波瀲 郁代	
一般社団法人 新潟県商工会議所連合会	専務理事	早福 弘	
新潟経済同友会	専務理事 事務局長	藤澤 成	
株式会社日本政策投資銀行	新潟支店長	和田 雅彦	
株式会社第四北越銀行	執行役員 コンサルティング 事業部長	高橋 伸彰	
長岡市	都市整備部長	若月 和浩	
上越市	企画政策部長	池田 浩	
柏崎市	総合企画部長	飛田 訓利	
新潟県	交通政策局長	佐瀬 浩市	
東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社	総務部 企画戦略室長	吉田 勤	オブザーバー
西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社	地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	オブザーバー
国土交通省北陸信越運輸局	鉄道部長	笠原 由之	オブザーバー